



校長室だより

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

八代市立八代小学校

校長 村嶋 博史

R5,6,19 No.8

5年生の集団宿泊教室

5月31日(水)、5年生は、1泊2日の芦北青少年の家での集団宿泊教室へ出かけました。

子供たちは、1日目に「入所式後」「館内ウォークラリー」「マリン活動」「ナイトゲーム」、2日目に「備後オリエンテーション」「焼きすぎづくり」「退所式」などの活動を体験しました。



仲間と寝食を共にしたことで、改めて思いやりや協調性、規律ある集団行動の大切さなどを学んだことと思います。ここで得た力をこれからの学校生活において、どんな形で表現するのかとても楽しみです。

市民体育祭での活躍

6月4日(日)、八代市民体育祭の陸上競技が、県南陸上競技場で行われ、本校から10人の子供たちが参加しました。

この子供たちは、大会参加が決まった約1ヶ月前から毎朝練習に励んできました。その成果が発揮され、男子100m走3位、男子800m走2位、男子100m×4リレー3位、女子100m走6位、女子800m走2位、女子100m×4リレー1位と輝かしい成績をおさめました。

【出場者】

女子：菊池さん、志戸さん、樋口さん、大石さん、西田さん(6年)
男子：大場さん、小貫さん、村本さん、木下さん、橋口さん(6年)



子供たちの命を守ります ～応急手当について学びました～

6月7日(水)、体育館にて、「応急手当」(心肺蘇生法とAEDの使用法)に係る職員研修を行いました。これは、プールを使った体育科学習が始める前に行ったもので、参加者全員、子供たちの命を守ろうと真剣な表情で取り組んでいました。

「心の絆を深める月間」 ～いじめはなぜ起きるの?～

6月を「心の絆を深める月間」と位置づけ、「みんなが楽しいと感じる学校づくり」を学校総体で行っているところです。

その一環として行った6月14日(水)の全校集会では、児童会の子供たちが、日常で見かけるちょっとした不快な言動(いじめ)を取り上げ、ロールプレイ(役割演技)を通して、みんなに自分の言動について振り返り改善するように呼びかけました。



また、校長講話では、いじめの4層構造(詳細は下記参照)の中で、今の自分の位置を客観的に捉えさせ、今後いじめ防止のためにどういう言動を取るべきかを自分で決めるように促しました。

学校で起きるいじめは「いじめる子供」と「いじめられる子供」の2層構造ではなく、直接手は出さないが、いじめをはやし立てたり面白がったりして見ている子供たち(=観衆)、巻き込まれたくない、次のターゲットになりたくないという感情から見て見ぬ振りをする子供たち(=傍観者)を含めた4層構造からなっています。

観衆がいじめを積極的に肯定することで、いじめる子供は観衆にいじめ行為を認められたと思い、いじめを加速させます。また傍観者はいじめを暗黙的に支持してしまうため、いじめる子供も観衆もいじめを悪いことだと認識する機会を失い、継続・促進させます。

いじめる子供によって引き起こされたいじめは、観衆と傍観者の存在によって、一過性のものではなく、加速・継続・促進されていくのです。

いじめを無くすためには、この観衆と傍観者の子供たちの変容と立ち上がりが極めて重要と考えます。

ご家庭でも、機会ある毎に、いじめの醜さや愚かさ、被害者の心の傷の深さなどについて、自分の体験談や見聞きされた事例等を交えてお話しください。